

キク科 タカサブロウ属

モトタカサブロウ (元高三郎)

Eclipta thermalis Bunge

自生環境

水田、湿地 など

原産地

日本在来

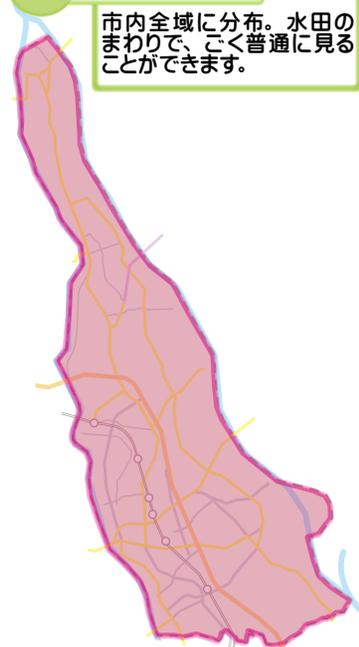
生育を脅かす要因



市内の水田では比較的普通に見ることができます。ただ、同じ仲間から外来種のアメリカタカサブロウや、他の外来植物が繁茂すると、生育場所を奪われてしまうおそれがあります。

市内の分布状況

市内全域に分布。水田のまわりで、ごく普通に見ることができます。



特徴

- ☆ いわゆる「水田雑草」で、水田周辺によく生える1年草です。かつては日本に自生するのはタカサブロウ1種類のみとされてきましたが、その後の研究で在来種と外来種（アメリカ原産）の2種類が混じっていることが判明しました。現在は、在来種をモトタカサブロウ、外来種をアメリカタカサブロウと呼んでいます。
- ☆ 草丈は環境によって大きく変動し、20～70cmほどになります。夏から秋にかけ、直径1cmほどの少しくすんだ白色の花を咲かせます。霜が降りるころには、全体が黒っぽく変色して枯れます。
- ☆ アメリカタカサブロウとの最大のちがいはタネのかたちです。タネの左右に翼（よく）があり、すんぐりしたかたちになります（アメリカタカサブロウは翼がなく細い）。またアメリカタカサブロウと比べると、葉の幅が広く、色もやや黒ずむ傾向があります。

茎で字が書ける草

タカサブロウの茎や葉に含まれる汁は、空気にふれると青黒く変色します。そのため、茎を折って汁を紙にこすりつけるようにすると、時間とともに文字が浮かび上がってきます。昔、高三郎という人が茎で字を書いたことが名前の由来だとする説もありますが、真意は不明です。古い時代に皮膚病（タラビ）を治すのに使ったためタラビソウと呼ばれ、それが訛ったとする異説もあります。



アメリカタカサブロウより
葉幅が広く、全体的にすんぐり



花の直径は
1cm くらい



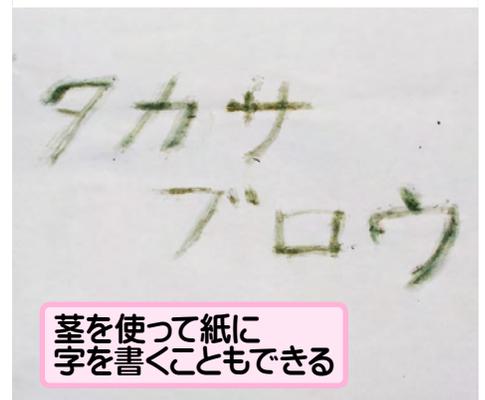
タネは
平たい皿
のように
集まって
できる



タネの両側に翼があり
すんぐりして見える



茎の汁は
空気に
触れると
黒く変色



茎を使って紙に
字を書くこともできる



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

